

ママ穴舐め舐め
サークル
二人っきりのセックス
では飽き足らず
複数人で激しく
ねっとり絡み合う
母子たち

「ンチュパッ…ムジユブブウ…チュパチュパア……ユウヤ、どうだ…俺のママの穴も結構なもんだろ??チュパチュブブ…」

左右二つにみっちり分かれ、プリンッ!と弾力がある友人のママのプニユプニユのお尻を鷲掴みにして、割れ目に顔を埋めながらトモヤが親友に尋ねる。

「うん…チュブババア…結構いいかも、スゲーうめえよ…ハアハア…ジユチュブバチュルルルブバア」

言葉を発するのもやっとという具合に、トモヤと同じく大きなお尻のワレメに顔を挟まれているユウヤ。

「ムパア…ムパア…ムパア…」

更にこの二人の隣では、最近このサークルに参加したばかりのケンヤが我を忘れてトモヤのママのお尻の穴を舐めている。

このサークルは、“自分のママを連れてきて、友人のママたちも一緒になって、とにかくママというママの穴という穴を舐めまくろう”というコンセプトのサークルだ。

毎週日曜日の夜になれば、エッチなことに日がな一日興味津々な母子たちが会し、“激しい活動”を行う。

そもそもこの乱交形式の母子相姦は一つの“発展段階”。

当然ながら参加者の少年たちは、ママと恋人顔負けの二人っきりのラブラブセックスを嫌というほど経験してきた強者ばかりだ。

トモヤもママとセックスし続けてはや半年。

性欲が芽生えて間を置かずママから誘われて味わったママの体は、言葉では言い表せない程の衝撃的気持ち良さだった。

そしてそれ以降、毎日ほぼ欠かさず精液が一滴も出なくなるまでママとエッチばかりしているトモヤだが、皆でこうやって集まって、みんなのママ、“熟女”たちの体を楽しむのもまた違った別次元のエロさがある。

みんなで赤ちゃんに立ち戻り、ママたちのおっぱいに吸い付くのも最高だけど、ここやはり息子たちの最大の目的はママたちの“お尻の

穴”を舐めることだ。

そこに乱れ切ったムッチムチで卑猥なママたちのお尻の穴があるならば、舐めたくなるのは男として当然の性。

人生で性欲が最も高まるトモヤやユウヤのような青年ならば、四六時中、一日中、いや一週間ずっとだって舐めていても飽きることなどない。

「ジュペロペロオ…ムパチュブパア…ハムハムツ…ムプハアア…あ
あうめえ…ジュブブこんなうまいもん…ムペロペロペロ…ジュジュジ
ュジュ…この世に…ないぜ…ブジュジュルル」

途中参加のケンヤガトモヤのママであるミサヨの分厚い尻肉にし
ゃぶりくき、強力な磁石のように一向に顔をそこから話そうとしない。

体験版はここまでです。
もし気に入っていただけましたら、
続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。